

1 これまでの経過

平成27年6月5日

- ・新規恒久施設 6 施設に係る後利用の方向性を公表
- ・4 施設※について施設運営計画策定支援事業者を募集

※オリンピックアクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラローム会場

平成27年10月2日

- ・支援事業者を決定、公表 ※4 施設

平成27年10月～平成28年1月

- ・施設運営計画検討会で検討

平成28年3月31日

- ・第4回アドバイザリー会議開催

平成28年5月25日

- ・施設運営計画（中間のまとめ）公表 ※4施設
- ・パブリックコメント募集

2 施設運営計画の位置づけ

新規恒久施設を、大会後も都民、国民の貴重な財産として末永く有効活用していくため、大会前の早い段階から**民間の知恵とノウハウを取り入れて策定した、施設運営の指針となる計画**

3 新規恒久施設のレガシーの基本的考え方

(1) 多目的な活用

競技スポーツに加え、都民のスポーツ利用や文化・レジャー活動、青少年教育の場として多目的に活用

(2) 周辺との連携による広がりのあるレガシーの形成

施設周辺との連携を図り、様々な人が集い、交流が生まれるにぎわいの拠点とする

4 周辺のまちづくりとの連携

「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」の検討とも連携し、周辺のまちづくりとの連携によるにぎわいを創出

5 臨海部の交通利便性の向上に向けた取組

- 骨格幹線道路の整備
- BRTの導入
- 都営バスのバス路線の拡充
- 自転車利用環境の整備
- 舟運の活性化

- ◆ 大会後を見据えた舟運活性化
- ◆ 新規恒久施設への更なるアクセス強化

6 今後の検討

- ◆ 引き続き、民間の知恵とノウハウを取り入れ、大井ホッケー競技場とアーチェリー会場（夢の島公園）も含め、各施設の管理・運営のあり方を検討
- ◆ 適宜アドバイザリー会議を開催し、「施設運営計画」（最終のまとめ）を平成28年度末を目途に策定

オリンピックアクアティクスセンター

施設の位置づけ

- 国内外の主要大会の会場、アスリートの競技力強化・育成の場としていく
- 子どもから高齢者までが安心して、日頃からスポーツ活動や健康増進を行うことができる場としていく
- 海上公園との一体感やつながりをもった都民の憩いの場としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用

- 競技力向上事業の展開（オリンピック・パラリンピアン水泳教室、こども水泳スクール）等
- レーン貸し（団体利用）等

2 子どもから高齢者まで幅広く楽しめる水泳場を提供

- アクア水上レジャーひろば
- 健康増進事業（水中歩行、アクアピクス、ベビースイミング）等

3 大会運営諸室を有効活用し、健康増進、文化・教養活動を推進

- スタジオにおける健康増進事業（ヨガ、エアロピクス）等
- 会議室を活用した子どもの一時預かり、スポーツ関連セミナー、文化・教養講座 等

4 都民の憩いの場として、海上公園と一体になったにぎわいを創出

- デッキ等におけるイベントの開催 等
- オリンピック・パラリンピックメモリアルコーナー、休憩・談話コーナーの設置 等



III 年間利用イメージ

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインプール	大会時 国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時 専用利用（レーン貸）/選手育成コース等 個人利用											
サブプール	大会時 国際・国内大会、都大会等を開催 個人利用											
	通常時 早朝一般開放 専用利用（レーン貸）/こども水泳教室 等 個人利用 水中歩行、アクアピクス、ベビースイミング 等 水上レジャーひろば（学期間）											
その他エリア	スタジオ ヨガ、エアロピクス、健康増進講座等/空き時間は専用利用											
	トレーニングルーム 個人利用/スタジオとの一体利用事業等											
	会議室 文化・教養講座、子どもの一時預かり/空き時間は専用利用											
デッキ等を活用したイベント（年1回）												

II 周辺地域との連携



【連携のイメージ】

- 施設及び公園の相互利用促進
 - ・ 周辺公園内にランニングコースを設定、ランナーやニュースポーツ等公園利用者による施設内更衣室、シャワーの利用 等
- にぎわいの創出（デッキを中心として）
 - ・ 全館を活用した大規模な催しや、大型ビニールプールを設置したイベント開催 等
- アクセス改善
 - ・ 案内サインの表示、園路灯の改善 等

IV 年間来場者目標

約100万人
大会利用・観戦、
一般利用・教室等

海の森水上競技場

施設の位置づけ

- ボート、カヌー（スプリント）等の大会の会場・競技力向上、都民の新たなスポーツ体験、青少年教育の場としていく
- 隣接する「海の森公園（仮称）」など周辺施設と連携し、臨海部の新たなにぎわいの場、憩いの場としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 最高峰の水上競技大会の会場・競技力向上の場として活用

- ボート、カヌー（スプリント）、ドラゴンボート、トライアスロンなどの大会の実施
- 国内選手の強化・育成の拠点等として活用

2 青少年へのスポーツ教育・環境教育の場として活用

- 青少年を対象とした、水上スポーツ体験・スポーツ教育の実施
- 海の森公園（仮称）の森づくり、環境関連施設等と連携した環境学習の実施

3 多様なスポーツに親しめる機会を創出

- サイクリング、屋外ヨガのほか、ランニング、スタンドアップパドルボードなどアウトドアスポーツの実施

4 様々な人が集い訪れるにぎわいの拠点として活用

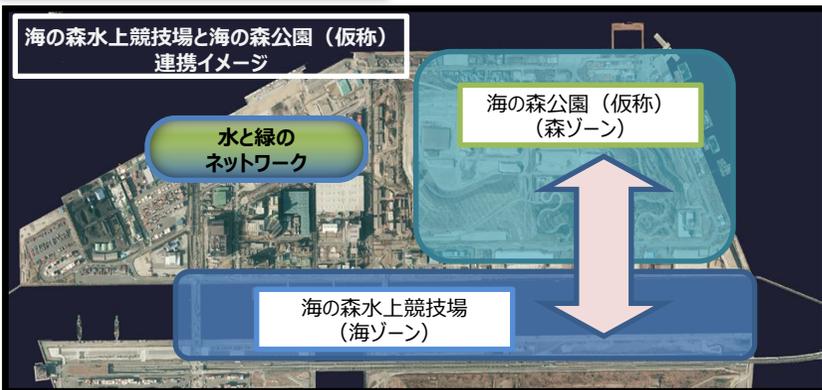
- イベント・イルミネーションなどによる冬季の利用促進
- 市民参加型のアートイベントやフードイベントの開催、企業研修やセミナーなどの誘致

III 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
競技コース	競技利用 ・ボート ・カヌー（スプリント） ・ドラゴンボート ・トライアスロン 等	大会利用												
		練習利用・合宿など												
	レクリエーション利用	水上スポーツ体験												
施設	フィットネス	フィットネス												
	飲食・宿泊利用	レストラン、宿泊施設など												
その他	イベント						イベントなど			イベント・イルミネーションなど				
	アウトドアスポーツ	サイクリング、アウトドアフィットネスなど												
	環境学習など	環境学習など												

濃色：主な利用を想定する時期

II 周辺地域との連携



隣接する海の森公園（仮称）と連携した水と緑のネットワークの拠点として、自然を享受し、水辺に親しめる憩いの場としていく

- **連携のイメージ**
 - ・利用案内・情報提供の効率化
 - ・駐車場・宿泊施設・飲食施設の相互利用
 - ・連続性のあるサイクリング・ランニングコース・散策通路 等
- **連携による効果**
 - 利用案内の効率化、施設間の相互利用、効果的な事業展開 等

IV 年間来場者目標

約35万人

（競技利用、レクリエーション利用 等）

有明アリーナ

施設の位置づけ

- 大規模なスポーツ大会やイベントの開催に加え、都民が日常的にスポーツに親しめる場を提供していく
- ウォーターフロントの景観を活かしたにぎわいと潤いのある、東京の新たなスポーツ・文化拠点を創造していく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 質の高いスポーツ観戦機会等の提供

- 国内外の主要な競技大会を開催し、東京の魅力を世界に発信
- メインアリーナについては、一定期間、スポーツ床期間（仮設のスポーツフロア）を設定

2 魅力的なエンターテインメントの場の提供

- コンサート等の文化イベントの開催など、都民に夢と感動を与える機会を創出

3 身近なスポーツ施設としての機能の発揮

- サブアリーナ等を活用し、都民が日常的にスポーツに親しめる環境を提供

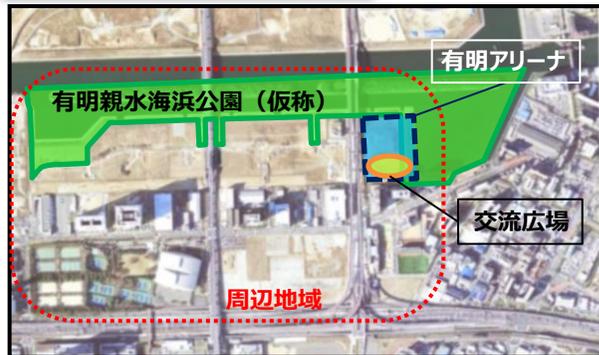
4 多様なコミュニティの場の提供

- サブアリーナ等の一般利用や交流広場を活用したイベント等の開催

5 施設周辺との連携によるにぎわいの創出

- 施設周辺の親水空間や近隣施設と連携した各種事業の実施

II 周辺地域との連携



【連携のイメージ】

- 有明親水海浜公園（仮称）との連携
（例）ランニング・ウォーキングコースの設定
ランニングステーションとして有明アリーナの更衣室、ロッカーを利用
- 交流広場でのにぎわいの創出
（例）フリーマーケット、キッチンカー、イベントの開催など

III 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メインアリーナ	スポーツ	国際・国内大会、興行スポーツ等											
	コンサート等	コンサート等											
	その他	卒・入学式等		株主総会等		企業運動会等（適宜実施）							
サブアリーナ	スポーツ	都民利用・スポーツ教室等											
	イベント	スポーツ振興イベント等											
その他	フィットネス・スタジオ	フィットネス指導、レッスンプログラム、サブアリーナと連携した教室											
	テナント（カフェ・レストラン）	スポーツ大会やコンサート来場者、近隣住民、公園利用者の利用											
	施設周辺との連携	交流広場でのフリーマーケット等、公園でのイベント等											

IV 年間来場者目標

約 140 万人

〔 競技利用、コンサート利用、イベント利用 等 〕

カヌー・スラローム会場

施設の位置づけ

- カヌーのほか、ラフティングなど様々な水上スポーツが楽しめるレジャー・レクリエーション施設としていく
- 葛西臨海公園など周辺施設と一体的な活用を図り、新たなにぎわいの拠点としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 国内初の人工スラロームコースによる様々な水上スポーツの機会を提供

- 国際大会、主要な国内大会の会場、国内選手の強化・育成の拠点（スラローム、ワイルドウォーター、フリースタイル、ポロ等）
- カヌー教室 等



2 施設特性を活かした様々な活用の推進

- ラフティング体験などの水上レクリエーション
- 水難救助訓練、企業研修 等



3 周辺施設、地元区と一体となったにぎわいの創出

- 葛西臨海公園、葛西海浜公園等との連携
- 周辺施設と連携したイベント等の開催



III 年間利用イメージ

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
スラロームコース	競技利用	国際大会・国内大会・練習利用 等											
	レクリエーション利用	ラフティング体験 等											
	その他利用									水難救助訓練 等			
フィニッシュエリア	競技利用	カヌーポロ 等											
	レクリエーション利用	カヌー教室 等											
	その他利用	水上遊具 等											
周辺施設	アウトドア教室	植物ガイド・野鳥観察 等											

濃色：主な利用を想定する時期

II 周辺地域との連携



- 葛西臨海公園、葛西海浜公園は、年間300万人以上が訪れるレジャースポット
- あらゆる都民が1日中楽しめる施設とするため、カヌー・スラローム会場、葛西臨海公園、葛西海浜公園の一体的な活用を検討

(例) 全体コンセプトやゾーニング、相乗効果を生み出す事業、既存資源の活用、一体的な管理運営方法、地元区との連携

IV 年間来場者目標

約10万人
競技利用、
レクリエーション利用 等